



新春対談

「伝わる」ことの大切さ

広報ぬまづでは、毎年1年の始まりに市長と沼津にゆかりの深い著名人や有識者が語り合う「市長新春対談」を掲載しています。

今回の新春対談は、幼少期の2年間を沼津で過ごし、第27期燦々ぬまづ大使を務めてくださっているフジテレビのエグゼクティブアナウンサー、軽部真一さんをお迎えしました。

対談のテーマは『「伝わる」ことの大切さ』。沼津市制施行から100周年を迎える節目となる年に、まちづくりをすすめる市長と、情報発信のプロである軽部さんの言葉から、みなさんぜひ、一緒に沼津の未来を考えてみてください。



第二のふるさと、沼津

【市長】 明けましておめでとうございます。今年はいよいよ沼津市制施行から100周年という、記念すべき年です。大切な節目の新春対談に、軽部真一さんをお迎えいたしました。

【軽部】 どうぞよろしくお願いたします。昨年、燦々ぬまづ大使に任命いただき、第二のふるさと沼津に足繁く通うきっかけになりました。とても嬉しいです。

【市長】 めざましテレビをはじめいろいろな場面でPRしていただき、沼津市の露出度が高まりました。軽部さんのご尽力に、心から感謝しております。燦々ぬまづ大使をお願いしたのは、軽部さんが小学校3年生から5年生の1学期まで、沼津で過ごしたという話を伺ったからなんです。

【軽部】 父の転勤で沼津に来て、大岡小学校に通っていました。豊かな自然と、東京とは違う沼津の子供達の素朴さや親しみやすさに、すぐに馴染むことができました。少年時代の2年間は大人とは密度が全然違います。沼津での多くの原体験によって、今の僕があるんです。だから、沼津は第二のふるさとだと思っています。燦々ぬまづ大使になって、思い出がリアルタイムに変わりとっても感慨深いですよ。

【市長】 先程の撮影の際に、大岡小学校で校庭を見回されている姿を拝見し、当時を懐かしんでいるように感じました。軽部さんの後輩たちが、懸命に野球をしていましたね。

【軽部】 未来を担う沼津っ子だ、と思いました。僕の沼津の思い出は、子供目線で見えていたもので、沼津っ子には感情移入するんですよ。

【市長】 沼津での思い出の場所はありますか？

【軽部】 海です。沼津では夏になると毎週のように海水浴に出かけることができ最高でした。特にお気に入りのは若松海岸へはよく行きましたよ。

【市長】 あそこは磯遊びに最高の場所です。今もほとんど変わっていないです。【軽部】 その手前には三津の海水浴場、足を延ばせば大瀬崎や戸田もあります。若松海岸は格別にきれいだった。生まれて初めて海の中を泳いでいる魚を見たんです。

【市長】 あのエリアは「水質が特に良質な水浴場」にも選ばれるなど、小笠原や沖繩の海にも負けないくらい美しい海だと環境省のお墨付きなんです。【軽部】 じゃあ、10歳の頃のあの感動は正しかったんだ。水族館やお店がたくさんある賑やかな三津も、楽しいエリアでした。

【市長】 今は「ラブライブ！サンシャイン!!」の聖地巡礼スポットとして多くのファンのみなさんが訪れています。